

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年3月22日  
函館市立中の沢小学校

1 本年度の重点教育目標

進んで学び、自分の考えを表現する子の育成

2 本年度の取組の重点

(1) 連携と協働 (2) 授業改善 (3) 強みを生かした学校づくり (4) いじめ・不登校対応 (5) 業務改善

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
(1) 連携と協働	①保護者・地域住民との連携 ②コミュニティ・スクールによる連携 ③中学校区による小中一貫教育の推進	b	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、学校運営協議会の開催を始め、具体的な活動を十分に行うことができなかった。次年度は、地域コーディネーターとの連携を通して、特色のある教育課程の充実を図りたいと考えている。	A	B	・コロナ収束を見据えての取組が重要である。
(2) 授業改善	①授業改善 ②学力保障 ③年間指導計画と授業内容 ④学習環境の最適化 （学習規律・指導過程・教室設営） ⑤指導計画の工夫 （柔軟な指導体制） ⑥教育課程の評価・改善	b	授業改善推進チームの本務校として、チームを活用した授業改善の推進を加速させることができた。 次年度は、一人一台端末の効果的な活用について、外部関係機関等との連携をより一層図りながら、授業改善や学力保障の充実につなげていきたいと考えている。	A	B	
(3) 強みを生かした学校づくり	①特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーター、生徒指導部との連携による「特別支援委員会」の機能化 ②校内支援体制の充実	a	特別支援教育の効果的手法により通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童への指導が充実できた。 次年度は、臨時的な支援体制ではなく、ケースを想定した計画的な組織体制の構築を図りたいと考えている。	A	A	
(4) いじめ・不登校対応	①未然防止の取組 ②不登校への対応 ③不登校への関係機関との連携	b	不登校傾向にある児童に対しては全校的な体制で支援に当たり、保護者を含めて面談や関係機関（南セ・子ども未来部・児童相談所等）との連携が成果をあげている。 次年度はQUやアセス等の実施により、より予防的生徒指導の充実をめざしたいと考えている。	A	B	

(5) 業務改善	①長時間勤務の解消 ②業務内容の精選 ③関係機関との連携 ④校務の ICT 化	<b>b</b>	教員本来の業務を整理しながら、効率的な業務の在り方についての検討が一層必要であると考えている。 次年度はコロナ収束を見据えた学校行事等の見直しを図っていく必要があると考えている。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が本来の業務に専念できる取組を推進することが重要である。</li> <li>・協力体制を高めたいと考えている。</li> </ul>
-------------	--	----------	--	---	---	--

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。